

市町村名	うるま市						
平成 2 5 年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-④	商品開発プロモーション事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(9)-イ	
担当部課名	経済部 商工観光課	事業実施（予定）年度	平成 2 5 ～ 2 7 年度		沖縄振興基本方針該当箇所	県産品の販路拡大と地域ブランドの形成 Ⅲ-1-(4)	
事業内容	市内中小企業の商品開発の強化及び販路拡大を図るため、県内外をはじめ中国・台湾などにおける市産品の物産展やアンテナショップ事業を実施する。また、本市の豊かな農畜水産物を活かし、農商工連携による6次産業化を推進するため、戦略的な商品開発と販路拡大に取り組む。さらに開発商品及び食のグルメなどのプロモーション活動を展開していく。						
実施方法	☒ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	27,317				
		(b) 予算現額	26,320				
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 997				
		(d) 繰越額	—				
		A. 計 (b+d)	26,320				
	B. 執行済額		24,509				
	うち交付金充当額		19,607				
	次年度繰越額		0				
	執行率（％）(B/A)		93.1%				
予算の状況の説明		予算減については、契約締結時に事業内容の精査した結果の減額及び特別旅費の執行残となっている。また、執行率が93.1%に留まっている理由については、事業完了後の委託料を精算した結果、人件費及び事業経費の執行残や旅費の執行残が発生したことが理由となっている。					
活動目標（指標）及び達成状況	H25活動目標（指標）		達成状況				
			25年度	26年度	27年度（1-③）	28年度	
	・県内外・国外物産展の開催 ・商品開発の実施	目 標	（ ・物産展の開催 ・商品開発の実施 ）	（ ）	（ ）	（ ）	
		実 績	物産展等開催 参加：8回 商品開発支援を実施した。	（ ）	（ ）	（ ）	
	・開発商品取扱店舗の商談の開催 ・グルメアンケート調査の実施及び検証	目 標	・商談の実施 ・アンケート調査の実施	（ ）	（ ）	（ ）	
		実 績	・商談イベントを実施した。 ・県内で市産品のプロモーションを併せてアンケート調査を実施した。	（ ）	（ ）	（ ）	
達成状況説明	①特産品販路拡大支援事業 ・物産展等への出展：8回（①第3回沖縄展（那覇市）6社②おきなわ花と食のフェスティバル2014（那覇市）8社③うるま市フェア（東京都中央区銀座）8社④第13回ちゅらしま大沖縄展（岩手県盛岡市）⑤沖縄物産&日本全国美食展（台湾高雄市）5社⑥商品展示場築蔵（中国広東省莞市）6社⑦中国世界ブランド輸入博覧会⑧スーパーマーケットトレードショー2014（東京都江東区）6社（物産展5回、商談会3回） ・国内外の物産展や商談会等に出展する際に必要な経費・旅費の一部を助成を実施。 ②特産品等開発販路開拓支援事業 ・特産品を活用した商品開発及び既存商品等の改良を考えている事業者に対し、将来自らが中心となって商品開発や販路開拓を推進できるようワークショップを開催（5回）した。また、飲食店メニューへのテスト導入（3品）やバイヤーマッチングイベント（1回）を実施し、事業者の販路開拓の支援も併せて実施できた。 ③食のプロモーション支援事業 ・昨年開発された、うるまもずくチャンプルー井などうるま市の「食」にスポットをあてたプロモーション活動を実施し、認知度向上を図った。その他、市物産のプロモーションと併せてアンケート調査も実施した。						

成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値 (年度)	25年度	26年度	27年度 (1-③)	目標値 (27年度)
	・物産展等売上額	目 標	()	・売上額 600万円	()	()	()
		実 績		・売上額 9,307,763円			
	・商品開発数 ・商品展示商談会参加数 ・グルメ等販売数	目 標	()	・開発数 5品 ・商談会参加数 5社 ・販売数 15,000食	()	()	()
		実 績		・開発数 6品 ・商談会参加数 9社 ・販売数 4,852食			
	【参考指標】 島ネロの販売数	目 標	()	(559本)	(1,000本)	(2,500本)	(2,500本)
		実 績		559本	2,086本	5,254本	5,254本
	【参考指標】 黄金チャンまんじゅうの販売数	目 標	()	(531個)	(1,000個)	(6,500個)	(6,500個)
		実 績		531個	5,729個	12,510個	12,510個
	【参考指標】 パッションフルーツピューレの販売数	目 標	()	(25kg)	(50kg)	(120kg)	(120kg)
		実 績		25kg	102kg	75kg	75kg
	【参考指標】 トビイカの販売数	目 標	()	(0kg)	(500kg)	(600kg)	(600kg)
		実 績		0kg	500kg	756kg	756kg
	【参考指標】 もずくのたれの販売数	目 標	()	(0本)	(1,000本)	(2,500本)	(2,500本)
		実 績		0本	2,200本	907本	907本
	【参考指標】 飲食店で開発した特産品メニューの販売数	目 標	()	(900食)	(-)	(200食)	(200食)
		実 績		900食	-	107食	107食
	進捗状況説明	総合的には目標を概ね達成することができた。 ①特産品販路拡大支援事業 継続した物産展への出展支援を行ったほか、出展のためのスキルアップのための講座や会議を開催し販路の拡大に向けた事業者への支援を行った。夏場のイベントでは台風の影響等天候が悪く、1日は見送ったことや、うるま市農産物等の認知度が低いことなどの要因によるものと考えられることから、総合的には目標を概ね達成できたものの、一部の目標値については目標を下回ることとなった。今後は告知方法も含め、更なる売上につながるような仕組みを検討していく。 ②特産品開発及びプロモーション支援事業 テレビや新聞等に取り上げられるなど、“島ネロ”、“黄金チャンまんじゅう”については、生産体制も含め設備投資もあったことから順調に売り上げを伸ばして目標値を達成することができた。 ”パッションフルーツピューレ”については、継続的な周知ができていなかったのか売り上げが伸び悩み、目標値を達成することができなかった。今後はPR方法についても検討していく。 ”トビイカ”については漁獲量が少なくなり、完売はしたものの十分な生産量を確保できず、目標値に達することができなかった。 ”もずくのたれ”については、製品化によるブラッシュアップのため平成26年度から販売を開始し、当初は目標値を達成できたが、売り上げが伸び悩んでいるため、今後PR方法を検討する。また、消費者意見をもとに商品の中身をリニューアルした。 ”市内飲食店で開発した特産品メニュー”を販売していた事業者が平成25年度末に閉店してしまったため、平成26年度の実績は無いものの、27年度に他の飲食店に交渉し、平成28年2月に販売を再度開始した。販売の遅れにより目標値の達成ができなかったが、期間は短いながら目標の半数を超えることができた。引き続き販売し、季節に応じてアレンジを加えるなどの工夫をして販売数を増やせるよう調整していく。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	①特産品販路拡大支援事業 ・うるま市の認知度が少しずつ向上していると思われるが、全国的にはまだまだ、認知度は不足している。継続した販路拡大が必要である。 ②特産品開発及びプロモーション支援事業 ・"島ネロ"については、販売実績を伸ばしており、平成26年度で3倍以上、平成27年度で2倍以上となり順調に売り上げを伸ばしている。また自社で設備投資を図り、さらなる生産体制を整備した。 ・"黄金チャンまんじゅう"については、平成25年度の販売時期と平成26年度の同時期を比較して売上が約8倍あり、平成27年度はテレビの取材効果もあり、1万個以上の売り上げ実績がでた。それに伴い、黄金芋自体の認知度も高まり、売上増に寄与している。一次産業と兼業であるため生産体制の上限にきていたことから、自社での設備投資を行い生産体制を整備した。 ・"パッションフルーツピューレ"については、伸び悩みをみせているので、今後のPR方法等検討していく必要がある。"トビイカ"については、需要もあり、目標値を達成できたが、更なる付加価値をつけた商品の開発に取り組んでいる。 ・"もずくのたれ"は、お客様の意見により、味のリニューアルを行った。 - また、特産品メニューを開発した飲食店は閉店してしまったため、別店舗でメニューをリニューアルして販売している。	①特産品販路拡大支援事業 ・継続した物産展でのPRを進めて、売上が上がるよう認知度を高めながら、販売方法についても検討する。また、誘客効果が高いと思われる事業者をできるだけ出展調整できるよう事業を展開していく。 ②特産品開発及びプロモーション支援事業 ・"島ネロ"については、これまで生産効率あげるための設備投資が課題となっていたが、今年度設備投資を実施した。今後は、更なる販路拡大に向け支援をしていく。 ・"黄金チャンまんじゅう"についても設備投資を行い、新たな雇用が生まれるなど販売体制も整いつつあるが、一次産業も兼業していることが販売の抑制につながっているため、原材料については、別で調達できないのかの調整が必要になってくると考えている。 ・"パッションフルーツピューレ"については販売が伸び悩んだため、今後PR方法等検討し、販売促進につなげたい。 ・"トビイカ"については、原材料の確保もさることながら、更なる付加価値をつけて販売することで収益を伸ばすことができないか検討していく。 ・"もずくのたれ"については、お客様からの声を参考に味をリニューアルしたので、広報紙等を通じて販売促進につなげるよう取り組んでいく。

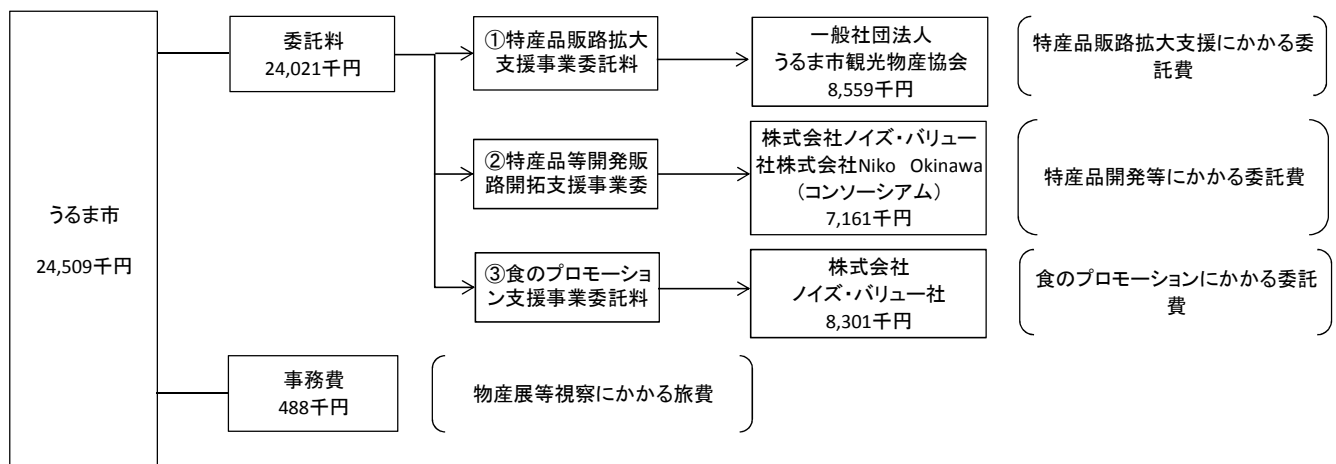
今後の取り組み方針

①特産品販路拡大支援事業 ・継続した物産展出展を実施し、うるま市の認知度向上を図っていく。 ・市内事業者を幅広く支援できるよう販路体制の構築を検討していく。 ・誘客効果が高いと思われる事業者の出展調整を行う。 ②特産品開発及びプロモーション支援事業 ・市内事業者のスキルアップの為の支援を継続していく。食品表示法2015年4月1日の改正に対応した知識の習得と助言を行う必要がある。 ・"島ネロ"、"黄金チャンまんじゅう"については、設備投資が行われ、生産体制を整備したので、販路拡大支援に取り組む。 ・"トビイカ"については、更なる付加価値のある商品への開発ができないか検討していく。また、販売が伸び悩んでいる商品についてのPR方法を検討していく。 ・開発された商品についてもブラッシュアップを推進していく。 ・雇用が発生するようさらなるプロモーション活動を推進していく。
--

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
24,509	24,509	19,607	4,902	0



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は公募型プロポーザル方式により企業組織、実績、経験等を勘案したうえで選定しており、妥当であると考えている。 ○費目、使途については、本事業の完了後に、事業内容等を精査したところ、事業目的にそった支出を確認し、精算を実施した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	